

平成 30 年 10 月 26 日

報道機関 各位

第 34 回都市公園等コンクールにて、最高賞・国土交通大臣賞を、舟橋村、富山大学、富山県緑化造園土木協会、日本造園建設業協会富山県支部、日本造園組合連合会富山県支部が受賞

「都市公園等コンクール」は、(一社)日本公園緑地協会が主催するコンクールで、都市のみどりの整備や管理等において優れた実績を残したと認められる作品を全国から募集し、これを顕彰するものですが、このたび、舟橋村・京坪川河川公園において、舟橋村と富山大学地域連携推進機構、(一社)富山県緑化造園土木協会、(一社)日本造園建設業協会富山県支部、(一社)日本造園組合連合会富山県支部が連携して進めている“舟橋型パークマネジメント”の取り組みが、最高賞となる国土交通大臣賞を受賞し、平成 30 年 10 月 26 日(金)に、東京都・日本消防会館(ニッショーホール)で表彰式が行われました。



News Release



【発信】 国立大学法人
富山大学総務部総務・広報課
(TEL) 076-445-6027
(FAX) 076-445-6033

つきましては、別添のとおり、記者発表致しますので、取材・報道方宜しくお願い申し上げます。

舟橋村と富山大学地域連携推進機構・(一社) 富山県緑化造園土木協会・(一社) 日本造園建設業協会富山県支部・(一社) 日本造園組合連合会富山県支部は、今後も地域課題を解決する造園業の新たな仕事づくりを推進して参ります。

国土交通大臣賞選定理由

舟橋村が京坪川河川公園を舞台に行っている、人口減少という地域課題の解決に向けた取り組みとして、県内造園3団体と大学、村が、日本初の地方創生に関する覚書を締結し、地域住民が使いこなし、人の輪が生まれる公園を創り出すための造園業の新しい仕事づくりを、大学と村が伴走する形で事業を展開するとともに、また、こども公園部長をはじめとする公園利用者の巻き込みや新たな資金調達法であるクラウドファンディングの実験など、公園の固定概念を取り払い、公園が秘める可能性を地方から発信していることが高く評価されました。

以 上

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学	地域連携推進機構 地域連携戦略室 (金岡)	TEL. 076-445-6955
	研究振興部社会貢献課	TEL. 076-445-6107
舟橋村	総務課 (中井)	TEL. 076-464-1121
富山県緑化造園土木協会 (村上)		TEL. 076-423-1023

舟橋村、富山大学、富山県緑化造園土木協会、日本造園建設業協会富山県支部、日本造園組合連合会富山県支部が「**第34回都市公園等コンクール**」にて、**国土交通大臣賞**を受賞しました！



日本一小さな舟橋村にある「京坪川河川公園（愛称：オレンジパーク）」において取り組んでいる「舟橋型パークマネジメント」が、「第34回都市公園等コンクール」特定テーマ部門にて、最高賞の国土交通大臣賞を受賞しました。

【作品名称】 オレンジパーク／地方創生に資する造園業

【受賞者名】 富山県舟橋村

富山大学地域連携推進機構

（一社）富山県緑化造園土木協会

（一社）日本造園建設業協会富山県支部

（一社）日本造園組合連合会富山県支部

【受賞及び作品概要】

「都市公園等コンクール」は、（一社）日本公園緑地協会が主催するコンクールで、都市のみどりの整備や管理等において優れた実績を残したと認められる作品を全国から募集し、これを顕彰するものです。

「オレンジパーク」は、平成16年に一部供用開始された面積約3.4haの近隣公園です。きれいに刈り揃えられた芝生が一面に広がるこの公園は、どこを切り取っても絵はがきのように美しい景色が続いています。しかし、かつてそこに人の姿はありませんでした。

今回受賞したのは、村・大学・造園3団体が連携し、この公園を舞台に挑戦している“舟橋型パークマネジメント”の取り組みです。これは、「人口減少」というすべての行政・企業に共通して立ち足る地方創生の課題に対して、公園として何ができるのか、公園が人口減少を歯止めする“場”“拠点”“となることを造園業者が地方創生の目標に掲げ、新たな公園の役割創造に取り

組んでいるものです。



村・大学・造園3団体は平成29年1月、造園業界として地方創生に関する“日本初”の覚書を締結し、これに基づいて、平成28年度からの2カ年に渡って県内造園業者向け勉強会を開催してきました。そして、全国の事例等を参考に、これからの時代の造園業に求められる新たな仕事づくりに向け、自ら考え、実際に動くことのできるスキルを学ぶことができました。



公園つくるんデス！～日本一ちっちゃな村の小学生と造園屋さんの挑戦～

in enmusubi まちづくり・地域活性化



¥ 集まった支援総額
2,542,623円
25% 目標金額は1,000,000円

参加者数
102人

募集終了まで残り
終了

一方、公園の現場では、これらを踏まえ、**地域住民が使いこなし、人の輪が生まれる公園づくり**に向けて事業展開してきました。平成27年度から開始したパークマネジメントは、造園3社から成るJVが実施しています。そしてそれは、子育て支援センターや図書館における子育て世帯へのヒアリングや公園での泥遊び、「こども公園部長」発案のクラウドファンディングの実施など、これまでの公園に対する固定概念を取り払いながら、新しい公園のあり方、新しい造園業者の役割を、まさに手さぐりで探し求めた日々でした。

こども公園部長たちが目指すのは、「この公園に来たら一緒に遊びたくなくて、いつの間にか仲良しになっちゃう」公園。「こども達の意見をもらうだけ」といった形式的なワークショップとはせず、部長たちは企画から資金調達、運営、管理までを実際に担っています。



現在、毎月1回実施されているイベントには回を追うごとに参加者が増えています。造園JVは子育て期の母親を数名スタッフとして雇用し、イベントではこども公園部長や遊びに来た参加者がスタッフの一員として活動しています。

このイベントのテーマは、“愛着”と“期待感”です。「ぼくが作った遊具がある」「この生け垣は私が剪定した」という公園への愛着と、「ここに行けば何かおもしろいことがありそう」という期待感を生むことを狙って企画されています。「与えられるサービス」ではなく、「関わることで得られる楽しさ」が村内外から人を呼び、次第にイベントをきっかけに村に関心を抱き、村の子育て環境について情報収集する姿を見かけるようになりました。



私たちが目指すのは、「この公園があるからここに住みたい」という地方創生につながる公園づくりです。

怪我や苦情の発生しにくい公共施設の追求とルールづくり、そして「景観の美しい公園が優れた公園である」という思い込みによって、これまで行政は地域住民に利用されない、必要とされない公園をつくってきました。しかし本来の公園は、いつでも、だれでも、自由に利用できる、そんな大きな可能性を秘めています。

固定概念を崩し、公園が持つ可能性を最大限に引き出す。そして人と人がつながり、愛着と期待感をもって、みんなで公園を育てていく。

そんな公園ができれば、「こんな公園があるくらいだから、ここはきっと良いまちだ」という期待感が生まれ、きっと、そのまちには人が集まってきます。いま全国には、人口減少やコミュニティの希薄化といった地域課題に悩む自治体が数多くあります。舟橋村での取り組みは、そんな地域課題に真っ向から立ち向かい、新しい公園のあり方や造園業の役割を創出しようとするものです。そして、ここで挑戦した新たな公園のあり方＝“舟橋型パークマネジメント”を地方から発信し、同じような課題に悩む地域に広めたいと思っています。

新しい公園の使いこなし方を行政に提案し、地域課題を解決できる造園業を目指して取り組もうとするその姿を、舟橋村・富山大学・(一社)富山県緑化造園土木協会・(一社)日本造園建設業協会富山県支部・(一社)日本造園組合連合会富山県支部は応援しています。

【参考】

一般社団法人 日本公園緑地協会

都市公園等コンクール 国土交通大臣賞作品概要

<https://www.posa.or.jp/topics/%e5%b9%b3%e6%88%9030%e5%b9%b4%e5%ba%a6%e7%ac%ac34%e5%9b%9e%e9%83%bd%e5%b8%82%e5%85%ac%e5%9c%92%e7%ad%89%e3%82%b3%e3%83%b3%e3%82%af%e3%83%bc%e3%83%ab%e5%8f%97%e8%b3%9e%e4%bd%9c%e5%93%81%e3%81%8c/>